

## 「当たり前」の中にある大切なもの

校長 友利 真一

令和8年度の前期が終わります。赴任したばかりの頃は、廊下ですれ違っても、私から「こんにちは」と声をかけなければ、生徒から挨拶が返ってきませんでした。それが最近では、こちらから声をかける前に「こんにちは」と声をかけてくれる生徒が、少しずつ増えてきました。中には、笑顔で手を振ってくれる生徒さえいます。そんな姿を見ると、私も自然と笑顔になります。たった一言の「こんにちは」ですが、皆さんとの距離が近くなってきたと感じます。

また、3年生を中心に、授業や勉強に向かう真剣な眼差しが増えています。自分の進路や未来を見つめながら、今やるべきことに向き合っている姿を見ると、「成長しているな、豊中生!」と感じます。

私がこの学校に赴任して、生徒の皆さんと出会った時の第一印象は、「本当に素直で、明るくて、伸びしろしかない生徒たち」です。そして、半年が過ぎた今も、その思いは変わりません。だからこそ、これからもっと成長できる。そう期待して止みません。

一方で、課題もあります。自分の気持ちを優先しすぎて、授業を真面目に受けられなかったり、相手の立場や気持ちを考えずに行動してしまったりしていることです。そんな話を耳にすると、私は残念に思うと同時に、いつも教職員たちにこう話してきました。

「悪いのは生徒ではない。指導者である私たちだ。私たちが変われば、生徒は必ず変わる。だからまず、教師としての力量を高めよう。そして、生徒に言う前に、自分たち教師はどうか。自分ができていないことを、生徒に求めるのはおかしい。今の豊富中学校にとっての『最適解』は何か。みんなで知恵を絞り出すために「対話」を重ね、「合意形成」を図ろう。」この半年間、豊富中学校の教職員は、それを実践してきました。まだまだ足りないと感じるかもしれませんが、後期も、取組を継続し、さらに高みを目指します。

そして、もう一つ、この半年間、生徒の皆さんの様子を見ていて、強く感じたことがあります。それは、家族や友人等、自分にとって身近で大切な人に、つい素っ気ない態度をとってしまい、それが残念な結果につながってしまっているケースが多いことです。

「友達なんだから、言わなくても分かっているだろう。家族なんだから、いつもそばにいてくれるだろう。」

本当そうでしょうか。周りの人は自分のことをわかってくれているだろうと当たり前にも思っていないか。家族も、友達も、先生も、今日そこにいてくれることは、決して当たり前ではないのです。

だから、身近な人を大切にする。「ありがとう」と思ったら、ありがとうと言う。「大丈夫かな」と思ったら、声をかける。そして、相手の立場に立って、自分の言葉や行動を一度考え、ふり返ってみる。前期を終える今、皆さんにも少しだけ立ち止まり、今の自分の問いかけてほしい。

「自分は、周りの人たちを大切にできているだろうか。」

学校も、教師も、生徒も、まだまだ成長の途中です。半年後、今より少し成長した自分に出会い、皆さん一人一人の「伸びしろ」が、後期にさらに大きく花開くことを、私は心から楽しみにしています。

保護者の皆様、地域の皆様、そして全ての学校関係者の皆様、令和8年度前期の半年間の学校経営に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございました。



# 全国学力・学習状況調査の結果と学習指導の改善について

## 【全国学力学習状況調査(国語)について】

今年度の調査における国語の特徴として、以下のことが挙げられます。

- ①学習指導要領の内容におけるすべての事項について、本校の平均正答率は、北海道および全国の平均正答率を下回っている。
- ②評価の観点において、知識・技能の観点の方が、思考・判断・表現の観点よりも、北海道および全国の平均正答率に対する差が大きい。
- ③問題形式において、記述式の問題の方が、他の二つの問題形式よりも、北海道および全国の平均正答率に対する差が大きい。

### ①について

「書くこと」の領域においては、北海道・全国との差が比較的小さく、理解が進んでいると言えます。中でも、「気持ちが変わるように表現を工夫して書く」という内容(今回は短答式の問題)については北海道・全国との平均正答率の差がほぼありませんでした。つまり、「表現の効果を考えつつ、ごく短い文で伝える」といった能力は身につけていると考えられます。

一方で、「読むこと」の領域においては、北海道・全国との差が比較的大きいです。中でも、「二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く」という内容(今回は記述式の問題)については、北海道・全国との平均正答率の差が30%ありました。つまり、「複数の文章を読み比べて理解したことに基づき、自分の考えを(再)構成する」という能力について課題があると言えます。

### ②について

知識・技能の観点の方が、思考・判断・表現の観点よりも正答率が低くなっていますが、これは、本校で実施する定期テストにおいてもよく見られる傾向です。品詞の識別(今回で言えば助動詞「られる」の受身・尊敬・自発・可能の識別など)や、語句の意味、漢字の書きなどに課題があります。

### ③について

一見すると、記述するということが苦手なようにも考えられますが、①で若干触れたように、そもそも、書くために「資料を読み解いたり、複数の文章を比較したりする」ところに課題があるようにも考えられます。これは私見ですが、単なる知識不足だけではなく、そもそも長い文章を読むことに耐えられない(集中力が持続しない)傾向があるように教科担当としては感じています。授業の改善は前提として、以下に、ご家庭でも知っておいていただきたいことをお示します。

『奪われた集中力』(2025年、ヨハン・ハリ／福井昌子訳、作品社)では、識字学者のアン・マンゲンの実験を引用し、『同じ情報でも、書籍での読み取りと比べ、電子画面での読み取りは読み飛ばしが多く、理解が乏しくなること』を示唆しています(これを「スクリーン劣性」というそうです)。また、日常生活で書籍から離れるほど(スマホ優勢になっていくほど)、そのような電子画面での情報の読み取り方がデフォルトになっていく、ということも指摘されています。つまり、情報を深く読み取るための力が失われ、それにより、さらに情報の読み取りが億劫になっていくという悪循環が起こるということです。また、集中力の分断という点でも、スマホでメールチェック(LINEやインスタグラムのチェック)を絶えずしていると、集中力が続かず、まとまった時間、物事に持続的に取り組むということが難しくなる可能性が示唆されています。

つまるところ、私が申し上げたいのは「至る所で通知が来るスマホを一時的に(物理的に)遮断し、何かにどっぷり浸かる時間を作りませんか」ということです。国語科としては紙による読書の時間を作るのがいちばん良いですが、その前段階にある人は、アニメやドラマを(倍速にしたりせず)1時間程度、しっかり見続けるということでも良いと思います。

### ◆全体を通して

「複数の文章を比較して、それらの主張を抽象化して書く」活動や、「複数のポスターを比較して、それらの特徴や活用について書く」活動などは、すでに授業(特に3年生)で取り組んでいるところですが、ある程度まとまった分量の文章を複数読み比べたり、それを可能にするための語彙力強化などを、今後も主軸に据えて授業を考えていきたいと思います。

## 【全国学力学習状況調査(数学)について】

### 1. 現状の分析と全国平均との対比

豊富中学校の数学科における合計平均正答率は、北海道(公立)の 55%・全国(公立)の 57%を大きく下回る結果となりましたが、昨年度より改善も見られました。また、領域別・問題形式別の詳細な対比から、以下の2つの課題があると考えられます。

- ① 基礎的な短答式問題におけるケアレスミスと、「関数」「データの活用」の領域における全道・全国差が大きい。  
「数と式」は健闘しているものの、「データの活用」と「関数」では大幅な開きが見られます。また、「短答式」においても基礎力に課題が見られます。
- ② 思考力・表現力を問う「記述式」に課題がある。  
「思考・判断・表現」および「記述式」の正答率は、ともに全道・全国との差に大きな開きがあります。自分の考えを数学的な根拠に基づいて説明する表現力が不足しています。

### 2. 今後の具体的な指導改善の取り組みについて

- ①「数学的活動」を重視した授業の充実  
・知識・技能を主軸とした学習から、思考力・判断力・表現力へ繋がる授業を増やします。  
・関数・データの活用についてはコンピュータやICT 端末(スプレッドシート等)を活用し、様々な変化をするグラフを観察したり、実際の統計データを分析・比較したりする活動を取り入れます。
- ② 記述問題のスモールステップの視覚化  
・引き続き知識・技能の基礎計算を主とした問題の取り組みを継続して基礎的な力を育成するとともに、思考力・判断力・表現力を伸ばすための学習活動を増やします。また、「①分かっていること(条件)」「②使う公式や性質」「③導き出される結論」の3ステップの型を生徒達に明示し、全てのステップの指導を丁寧に行えるように、様々な知識・技能の問題を解いて、思考力・判断力・表現力を育てる時間を増やすことで学力向上を図ります。

## 【全国学力学習状況調査(英語)について】

英語の全国学力状況調査は生徒によって出題された問題が異なっていたこともあり、生徒間での正答数の差が非常に大きくなっていました。豊富中学校3年生の「話すこと」「書くこと」「聞くこと」「読むこと」の英語4技能は、全国平均を9ポイントほど下回る結果となりました。

資料1は、公開された問題のうち、全員に共通して出題された問題9つの平均正答数を表したものであり、資料2は、技能別の平均正答数を表したものです。

これらの結果から、特に「聞くこと」「話すこと」の2技能が本校の課題であると考えられます。今後の授業において、英語を文字媒体よりも音声として触れていく場面を増やしていこうと考えています。英語を音として触れていくことで、正しい発音やイントネーションを覚えながら、聞く能力と話す能力に繋げていきたいと考えています。

## 10月の行事予定

- 1日(木) 後期始業式  
稚内大谷高校オープンスクール
- 3日(土) 実用英語検定②
- 5日(月) 校内研修 定時退勤日
- 7日(水) 3年生第5回学力テスト(総合B)  
後期一斉委員会 定時退勤日
- 12日(月) スポーツの日
- 14日(水) 定時退勤日
- 19日(月) 定時退勤日
- 21日(水) 定時退勤日
- 22日(木) B日課 文化祭総練習 職員会議
- 23日(金) 前日祭
- 24日(土) 文化祭
- 26日(月) 振替休日
- 27日(火) 豊富高校の在り方検討委員会 18:30~
- 28日(水) 3年生写真撮影
- 29日(木) 2年生職場体験(1日目)
- 30日(金) 2年生職場体験(2日目)